



# NEWS LETTER

No.18  
2016

## 未来の生活創造への女性の参画

平成28年  
2月4日(木)

— 3機関合同キックオフ・シンポジウム開催 —

文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携形)の採択を受けて、山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター及び山形県立米沢栄養大学との連携による女性研究者支援事業がスタートして5ヶ月。これまでの取組を紹介すると共に、国内外から先導的な役割を果たしていただけるゲストを招き、ご講演をいただきました。70人(女性39人、男性31人)の参加をいただき、最初に連携3機関を代表して山形大学小山清人学長からの開会の挨拶があり、白熱したシンポジウムが始まりました。



開会挨拶 小山清人学長

### 「大学・企業に、今なぜダイバーシティが必要か」

渥美由喜氏(内閣府少子化危機突破タスクフォース政策推進チームリーダー)



基調講演 渥美由喜氏

「私は、ダイバーシティ(多様性、多面性を持つ社員が活躍できる職場作り)とワークライフバランス(仕事と生活の調和)に取り組んでいる国内企業900社、海外企業150社の経営者、人事労務担当者を訪問し、ヒアリング調査をしてきました。そこで興味深い結果を得ました。育児休業の利用率や女性社員の平均勤続年数など約50項目を調べたところ、40以上の項目で平均以上だった120社では、2012年までの5年間で経常利益が平均で13%増加していました。一般企業ではリーマンショック後の同期間に30%減でした。このように、ダイバーシティやワークライフバランスへの取組みの有無で、両者は大きく明暗を分けています。」  
ダイバーシティへの取組みが大学や企業の経営戦略として不可欠であること、業績を向上させる具体的なノウハウを伺うことができました。

### 「研究・イノベーション・発展におけるジェンダーの新たな視点。男女共同参画は女性に限らない」

エリザベス・ポリッツァー氏(EU欧州委員会ジェンダー問題専門アドバイザー)



特別講演  
エリザベス・ポリッツァー氏

「生物学的性(セックス)や社会的文化的性(ジェンダー)の違いがいつ、どのように研究や調査の質に影響を与えるかについて、この10-15年間に蓄積されてきた重要な科学的エビデンスから次のことが分かっています。(A)ジェンダーバランスを考慮するほど、チームの集団的知性が向上すること、(B)男女で問題解決手段が異なる傾向があること、(C)リスクに対する態度は男女で違うこと、です。」

性やジェンダーの違いについてよりよく理解することで、イノベーションの機会や科学的知見を広げることができるのです。」

ポリッツァー氏は、科学技術分野(STEM)における男女平等に取り組む国際研究者団体ジェンダー・サミット(2001)の共同設立者の一人です。第10回ジェンダー・サミットが2017年に日本で開催されることから、日本でもこのような取組が広がることへの期待が述べられました。

### 質疑応答

コーディネーター 阿部宏慈 理事・副学長(男女共同参画推進室長)

二人の講師と会場参加者との質疑応答では、10人以上から質問が寄せられました。「多様性への対応でスキル取得が必要なのはむしろ男性ということに賛成ですが、どのようにすればいいでしょうか」「LGBTについて生物学、生理学などでは、どのように議論されていますか」「欧州委員会の『ホライゾン2020』プログラムの詳細を教えてください」等々、参加者の関心の高さが伺えました。講演内容は平成27年度報告書に掲載いたします。どうぞご覧ください。



質疑応答

# 共同研究促進セミナー & 管理職研修会

10月23日(金)

会場:山形大学工学部百周年記念会館

## 第1部 女性研究者の共同研究促進セミナー 35人(女性22人、男性13人)参加

### ●研究シーズ紹介「一緒に研究しませんか」

4名の女性研究者が共同研究シーズの紹介を行いました。本セミナーを契機に、女性研究者が代表となる共同研究が4件成り立し、その後も4件の共同研究が生まれています。

提案1 木村直子(教授)「哺乳類卵子のクオリティーを改善する回復培養系の開発と生殖寿命の制御」

提案2 大森 桂(准教授)「身体活動量と骨量等身体組成の相互関連性に関する基礎的研究」

提案3 泉 小波(准教授)「印刷法を用いたフレキシブル運動ストレスセンサの開発」

提案4 宮 瑾(助教)「さくらんぼ鮮度保持用自己湿度管理と保冷機能を持つゲル新素材の開発」

また、大日本印刷株式会社C&I事業部から、研究開発のためのワークショップ「サービスデザイン・プロジェクト」の紹介と参加者募集が行われました。現在、連携各機関から女性研究者が参加し、約20人によるサービスデザイン・プロジェクトが進んでいます。



共同研究シーズの紹介(木村直子教授)

## 第2部 ダイバーシティ研究環境実現 管理職研修会 49人参加

代表機関である山形大学の小小学長から、3機関の強みを活かし自然科学系の女性研究者を増やす貴重なチャンスとして本事業を推進していきたい旨挨拶がありました。

### ●「研究環境のダイバーシティ実現に向けて」高橋耕輔氏(文部科学省科学技術庁・学術政策局人材政策課係長)

「学長のリーダーシップの下、個々の大学の特性を活かし、大学が有する様々な機能を通じた、一貫性のある組織的な取組を積極的・継続的に展開していただきたい」という強い期待が述べられました。

### ●「女性研究者のこれまでとこれから～今がチャンス！未来創造への参画の期待～」

小舘香椎子氏(日本女子大学名誉教授、電気通信大学特任教授)

「『未来の生活創造への女性の参画』という本事業のテーマは、これまでの『支援型』から、より能動的で、ダイナミックな思考への転換を意味しています。大学・企業が連携する、協働型の環境を活かして、産業界からのニーズを把握し、それぞれが持つノウハウを活用しながら、新たな研究テーマが展開できるのではないのでしょうか。連携による新たな外部資金の獲得、学生にビジネスの現場を実体験させる教育上の効果、大学の知を社会に還元する機会の増加、まさに、次のステップに向けて大きなイノベーションを生む可能性を秘めており、大いに期待できます。」という声援をいただきました。



特別講演 小舘香椎子氏

8月に英ラウトレッジ社より出版された小舘尚文・小舘香椎子著"Japanese Women in Science and Engineering: History and Policy Change"の寄贈もいただきました。

参加者からは、「とても貴重なご講演を、楽しく伺うことができました。」「自分のキャリアを含め勉強になりました。」「女性が輝くためには、環境づくりや諦めない心が大切だと感じました。」等の感想が寄せられました。

## 大学院進学セミナー「フランスで女性博士はどのように育成されるか」

1月20日(水)

クリスティーヌ・デトレーズ氏(グランゼコール リヨン国立高等師範学校 社会学教授)

会場:理学部1号館13番教室 17人(学生・教職員)参加

共催:フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院

デトレーズ氏から女性の活躍のポイントとして、①法律の整備、②女性のロールモデルの存在、③女性が自信をもつこと、④組織改革(女性管理職比率の向上等)があげられました。また、課題として「フランスでは女性が、出産後も働き続けることは当たり前、ただ専門職にあまり就こうとしないという課題を抱えている」というお話がありました。



クリスティーヌ・デトレーズ氏



参加者との懇談会では、大学院を目指す学生や教職員から質問や感想が出されました。「ジェンダーは文化的、歴史的なものだから変えられるという言葉が印象に残った」という感想がありました。

## 平成27年度 女性研究者裾野拡大セミナー

### 「理学部で何ができるのか？ 女子高校生のための山大理学部案内」

講師：各学科の女子学生  
参加者：女子高校生51人  
(山形県立山形西高等学校)

「理学部で何ができるのか？」と題して教育・研究の紹介を行った後、理学部の女子学生や女性研究者と高校生との懇談会が行われました。参加者から「女性比率はどのくらいか」「卒業後、どのような職業に就くのか」等の質問が出されました。



女子学生による学科説明の様子

理学部  
8月31日(月)

### 「理学部の研究室を覗いてみよう」

講師：全学科の担当教員  
参加者：女子高校生77人

8月のセミナーに参加した高校生から、興味を持った学科を訪問してもらおうという内容で開催されました。

5学科の各研究室では、工夫を凝らした先端研究の実験や講義が行われ、高校生が熱心に参加する姿が見られました。



理学部  
12月19日(土)

物質生命化学科  
「化学合成を体験してみる」の様子

### 「理系研究の魅力とは～山形大学YU-COE (C)TASTY拠点研究紹介セミナー～」

講師：東原知哉(准教授)  
村山秀樹(教授)

参加者：37人(女性10人、  
男性27人)

第一線で活躍する研究者の研究室を紹介し、多くの中学・高校生や若者に理系研究の魅力を感じてもらおうと開催されました。講演の後、学生によるパネルディスカッション「学生から見た理系研究の魅力」が行われ、理系を選んだのはなぜか、理系に入ってどんな大変なこと、楽しいことに出会ったか、女性が少ない理由は何かが話し合われました。



工学部  
11月2日(月)

講演の様子

### 「農学部女子! 研究者になる!! ～それってどんな? 何するの?～」

講師：森静香(准教授)  
藤井弘志(教授)  
渡部貴美子氏(山形県立農業総合研究センター水田農業試験場研究員)

参加者:57人(女性51人,男性6人)  
女子高校生とその保護者を対象としてランチョンセミナーが開催されました。

農学部女性卒業生の最近の就職状況や研究職における職務内容、女性教員自身の研究者としての歩みについて講話がありました。「来年、山形大学に入学し、研究者を目指したい」という感想が寄せられました。



農学部  
8月2日(日)

セミナーの様子

## 第1回外部評価委員会開催

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)

2月24日(水)  
18人参加

### 「女性がリーダーとなる共同研究の実質的な成果と、 男女共に人材が育つことを期待する」

代表機関の総括責任者である小山学長をはじめ、連携3機関の総括責任者、実施責任者、担当者等が集まり、外部評価委員を招いて外部評価委員会(山形-東京TV会議)を開催しました。阿部宏慈ダイバーシティ連携推進会議長(男女共同参画推進室長)が本事業の概要を説明した後、3機関がそれぞれ実施状況を報告し、質疑応答が行われました。

最後の全体評価では、外部評価委員から「推進体制ができており、いいスタートをきっている」、「これから申請する機関のためにも、連携ならではの苦労や工夫を発信してほしい」、「学長のリーダーシップに敬服する」という評価をいただき、課題としては、「今後実質的な共同研究の成果が問われる」「女性がリーダーとなる共同研究で男女共に人材が育つことが課題」などの助言がありました。

【外部評価委員の皆様】

- 小舘香椎子氏(日本女子大学名誉教授・電気通信大学特任教授)
- 日高乃里子氏(帝人株式会社人事総務部ダイバーシティ推進室長)
- 合田 隆史氏(学校法人尚絅学院大学学長)
- 井上 榮子氏(山形県立米沢東高等学校長)
- 横山 正明氏(山形県立産業技術短期大学校長)(都合により欠席)
- 小野寺忠司氏(NECパーソナルコンピュータ株式会社米沢事業場執行役員)(都合により欠席)



網干 貴子 先生

学術研究院(農学部担当)  
食料生命環境学科・助教



◎どのような研究をされているのですか。

生物間の相互作用を化学的に明らかにするための研究をしています。主な研究対象は植物と昆虫です。特に、植物と植食性昆虫間には「食べる - 食べられる」の攻防があり、植物は昆虫に食べられないよう、毒や成長抑制物質など様々な化学的防御機構を発達させています。これに対して、植食性昆虫は解毒酵素を発達させるなど対抗適応しています。植物と植食性昆虫の相互作用を化学的に解明し、その関係性を効果的な植物保護に生かすことを目指しています。また昆虫間でも、仲間を誘引する

「お互いを理解するためのコミュニケーション能力が大切です」

フェロモンなど、様々な化学物質がコミュニケーションに利用されているので、これらの化学因子の解明を行っています。

◎プロフィールを教えてください。

大学は京都大学農学部に進学しました。4年次の研究室配属までに、なんとなく有機化学に興味を持つようになり、化学生態学研究室を選んだのが、現在の研究分野に入ったきっかけです。そこで、実際にフェロモンに誘引されて昆虫が集まってきたり、産卵行動が化学物質で引き起こされたりする様子を見て、生理活性物質に興味を持つようになりました。生理活性物質の研究自体は歴史ある研究分野ですが、各種分析機器の発達で、年々より微量での構造決定が可能となってきています。アプローチを変えることで、今までわからなかった化合物の構造が決まるところにも面白みを感じました。博士課程修了後は、ポスドクとして「環境保全型農業と両立する生物的相互作用を活用した難防除コナ

ダニ類新管理体制の確立」と「低炭素社会のためのメタボロミクス」というプロジェクトに従事しました。その後、本学農学部植物機能開発学コースの教員に採用して頂きました。

◎これから研究者を目指す人や学生へのアドバイスをお願いします。

研究者というと、いつも実験をしているイメージを持っている学生さんもいますが、実際には実験を始めるため環境を準備したり、打ち合わせをしたりと、実験操作以外の時間も多く、とても重要だと思います。外国人を相手にする場合は、英語などで正確に意思疎通する必要がありますし、色々な分野の研究者や職種の方と一緒に仕事をするとき、互いの状況ややりたいことに対する理解が欠かせません。研究者に限ったことではありませんが、相手を理解しようとして、自分を理解してもらおうためのコミュニケーション能力を磨いてください。

Information

4月28日(木)まで

女性代表共同研究支援の申請受付中

- ◎対象者：3機関(山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター、山形県立米沢栄養大学)に所属する女性研究者が研究代表となつて、連携機関の女性研究者と共同研究を行う者
- ◎支援期間：平成28年度末まで
- ◎支援内容：設備備品費、消耗品費、旅費、その他
- ◎申請期間：4月28日(木)まで
- ◎審査：特に有用な研究プロジェクトであると認められるもの
- ◎実績報告書の提出：研究成果及び経費の執行状況を報告する。
- ◎問い合わせ：0238-26-3356/3359(米沢分室)

Information

ライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度の申請受付中

- ◎対象者：出産休暇や育児休業、介護休業等を取得し、申請年度の4月1日から遡って過去3年以内に通算3ヶ月以上、研究を中断した女性研究者及び妻が研究者である男性研究者
- ◎支援内容：研究費50万円、但し、女性代表共同研究費と二重に支援を受けることはできない。
- ◎申請期間：常時受け付ける
- ◎問い合わせ：0238-26-3356/3359(米沢分室)

Information

夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育の利用に対する利用料金を補助します。

- ◎利用できる方：子育て中の女性研究者及び妻が研究者である男性研究者
- ◎お子さんの年齢：0歳～小学校6年生まで
- ◎補助額：お子さん一人につき上限2万円
- ◎事前登録：各種保育を利用する日の2週間前までに登録申込書に母子手帳の写しを添えて提出
- ◎申請書：利用後2週間以内に必要書類を添えて提出
- ◎問い合わせ：0238-26-3359(米沢分室)



Information

小白川キャンパス保育所のびのび雪遊びをしました。

1月21日(木)



学生が作った雪山で遊びました。

編集後記/新たに男女共同参画推進室米沢分室が設置され、3機関連携による文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」事業が本格的に始まりました。両立支援制度や共同研究支援等の周知を図り、広くご活用いただくことを願っています。(2016年3月)



山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12  
TEL 023-628-4937/4938/4939  
E-mail y-danjo@im.kj.yamagata-u.ac.jp  
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/